

# 内藤角右衛門

名

内藤景充

ないとう・かくえもん

ないとう・かげみつ

福山藩家老、弘道館造営御用掛、内藤氏第8代

## 経歴

生:宝暦8年(1758年)ごろ

没:文政3年(1820年)9月26日、享年62歳か、実相寺に葬る

安永9年(1780年)	22歳ごろ	千五百石の家督を嗣ぐ
天明6年(1786年)7月	28歳ごろ	弘道館造営御用掛
天明7年(1787年)	29歳ごろ	佐原義韶が幼少のため、その元服まで城代を勤める
文化9年(1812年)	54歳ごろ	勇鷹神社創建の総裁

## 生い立ちと学業、業績

内藤氏第8代、名は景充・潤之助、通称は角右衛門、擴斎・東溝と号した。隠居号東海。一般には東門大夫(たいふ)と呼ばれた。祖父景尹、父は景良で、安永9年(1780年)1500石の家督を嗣ぐ。

邸宅を凝翠軒と称し、ここで度々詩会が催され、福山の詩人が悉く集ったという。文化7年(1810年)菅茶山も頼山陽を伴い凝翠軒詩会に臨んでいる。詩酒徴逐を喜び、詩人との交遊が絶えなかった。

天明7年(1787年)、佐原義韶が幼少のため、その元服まで代わりに城代を勤める。勇鷹神社(今の阿部神社)創建の総裁。

文政3年(1820年)9月26日没、実相寺に葬る。

内藤家は、養嗣子の内藤角右衛門景堅が継いだ。

出典2:『福山藩の文人誌』、77頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典3:『福山藩の教育と沿革史』、157頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典4:『誠之館百三十年史(上巻)』、16頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典5:『門田朴齋「朴齋先生詩鈔」詳解初編』、89頁、門田朴齋著、吉備人出版、2011年7月12日

2005年1月24日更新:本文●2005年3月30日更新:経歴・本文・出典●2006年3月14日更新:本文●2008年5月1日更新:経歴・本文●2011年7月28日更新:経歴・本文・出典●